

第六期長期策定委員会 傍聴者アンケート
第15回実施分（令和元年7月12日開催） 自由記載欄
【傍聴者 11名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。 ※傍聴者 10名記載

<p>・住民の「街が好きだ」という感情と「まちを良くしたい」という感情は違うという議論がありましたが、街が好きだからこそ「まちを良くしたい」という思いが生まれるという面もあると考えます。例えば地価の高騰した吉祥寺では市に対する土地の遺贈が盛んですが、これは市民の自主的な献身であり、「街が好きだ」という感情無しに為し得ないものだと思います。故に、対来訪者だけでなく、対住民までを含めたシティプロモーション・ブランディングによるシビックプライドの構築が重要だと考えます。</p>
<p>・「シビックプライド」という言葉についての議論を拝聴していて感じた事です。カタカナの外来語を使うのは最低限にしませんか？ 日本語で適正な言葉を見つける努力をしませんか？ 例えば「武蔵野愛」とか…。</p>
<p>・委員の方々の真摯な意見交換には、好感がもてます。お疲れさまです、ありがとうございますと申し上げたいです。気付くこと、学ぶことができました。</p>
<p>・市職員の市内居住促進の議論 ・「防災」支援に重きを置いた議論が中心となってしまった感があつた。 ・住環境、子育て、教育、福祉—こういった事に市民として関わる機会をという提起が中心であれば、違う議論ではなかったでしょうか。（職員の人の意見を聞いてみてはどうですか…）</p>
<p>・シビックプライドに討論されたが、言葉のことにこだわらないで。計画の内容は？ どうするの？</p>
<p>・計画のたてられ方、進め方、振り返りそれを次に生かすようにされているかの議論 ・日本語話者でない児童生徒の支援について ・声をあげにくい方の声を聞くこと ・久留さんの健康・福祉 P30 の図についての説明</p>
<p>・(1)シビックプライドは一般市民からみると異和感があります。「お高くとまる」とか「おごり」とつながるイメージではないかと思います。地域の特色を生かすなら「地域アイデンティティ」、市民の意識に着目するなら「当事者意識を強くもって自らの地域を自分のこととして豊かにしようとして様々な地域の活動にとりくむ」という意味の表現とすべきだと思います。</p> <p>・(2)障がいのある子どもたち、日本語を母語としない子どもたちこそ、プライドがもてるような教育を保障すべきだと思います。この子たち一人ひとりによりそって、自らのもつ可能性を十分に開花させられるような暖かい教育を求めます。</p>
<p>・シビックプライドはパブコメで書き忘れてました。プライドとかほこりだとか使ってほしくない。 ・職務以外で市民活動させるのはコクという言葉を知ると、いくつか活動しているが全部やめたくなる。武蔵野市内でなくていいけど市民活動すべき。</p>
<p>・中村委員の発言に期待したい。 ・第六長で10年間の展望を書き込んで欲しい。 ・PM 8:50頃の委員長の発言。</p>
<p>・大上委員の“不登校対策:フリースクール等に通う不登校児童生徒への経済的支援”について。 第3期教育計画策定委員会での理念では、“経済的支援を各自治体でする”の国の方針が記載があります。その為、大上委員のおっしゃるとおり「フリースクール等を選択する児童生徒への経済的支援の仕方を検討する」を含め書き込むことは必要と感じます。</p>

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 ※傍聴者7名記載

<p>・多くの分野、詳細な検討が必要な大量の項目をていねいに話し合うのは、大変なご苦勞があると思います。それなのに、ほとんどの市民が無関心なのは誠に残念です。広報の仕方に問題があるのかもしれませんが。長期計画がどのように予算組みに反映されて行くのか、ずっと見守っていたと思います。</p>
<p>・パブリックコメント(資料2-2)の中の36の「命の尊さ」には賛同します。子どもは自分たちで育つので、それ程、先に先に何かをおぜん立てするより、根本のことはおさえることは大事で、命の尊さは、平和や環境・防災などの基本をおさえるところから始まると思います。小さい時からこのことをしっかり学んでほしいです。</p> <p>・市の職員の方の市民率は、防災というより、市への愛着・地域の本当の姿がみえるという点などが、市民への反映がしやすいということはあるのではないのでしょうか(やはり0では悲しい)</p>
<p>・事務局から大量の資料(いろいろな意見)が出ているが、委員は読んで収約して、事務局まかせではなく委員の意見が入るように努力してほしい。いろいろの意見をとり入れて、大いなる原案修正(具体的方向性)を望みます。</p>
<p>・なぜか外国のお子さんと不登校のお子さんのことを分けて議論されてしまっていますが、“すべての子ども”を指してインクルーシブ教育については語られていくものです。インクルーシブ教育は障害のある子だけを指して議論だけではないはずで、そして、それは誰かの理想や望みではなく、すべての子ども達が持っている権利(子どもの権利)という考え方であることを明記しておいてほしいです。</p> <p>・計画案 P30の図は、まさにすべての子ども、すべての大人の人を対象にあてはまるはずのことです。特定の対象者だけでなく、いつどうなった時にも、安心して相談できる体制づくりが必要です。(北海道の「浦河べてるの家」の「応援ミーティング」のようになるように。)</p>
<p>・委員と事務局の皆さんの努力とご苦勞に敬服します。このご苦勞が報われるように。ぜひ、今後10年の武蔵野市をより良くするための計画に結実することを祈っています。</p>
<p>・職員意見35「受け入れる側の子どもの気持ち…」の「受け入れる側」が明確でないので不明だが、いずれにせよ受け入れるという概念がおかしいのでは？</p> <p>・職員意見43 おもしろい！ 現場は疲弊だけでなく関心も薄い。</p> <p>・パブコメの集約の要約に不満があります。しかし、集約の大変さ、量を考えるとしかたないです。ありがとうございます。</p>
<p>・職員意見 P3 No.34,35「テーマ インクルーシブ教育」への意見について。この職員の方が日本の大人の考えの象徴と感じました。実は、日本が目指している“ダイバーシティ”はこの考え方(古い日本の考え方)を変える事が必要となります。なぜなら、大人が子供の頃、規則や規律を重んじ、個性や違いを否定されて教育を受けていたからです。子供の年齢が低いほど、子供は人に対する価値観はいいところも悪いところも親の影響を受け、親が「良い」というものは「良い」、「ダメ」というものは「ダメ」となる。親が子供に「多様性」(認めあう)を教えてなければ違う人を排除します。大人・教師が多様性を受け入れましょう！「本当に子供のことを考えると…」とありますが、本当に子供の事を考えるのであれば、多様性を認めあい、区別のない一緒の教室が一番いいんです。</p> <p>「誰にとっての理想なのか？」と疑問の言葉が出てますが、40年前はみんな一緒に過ごしていた時代があり、理想ではなく現実です。「ダイバーシティ」「多様性を認め合う教育」を調べてみて下さい。きっとどうしたらいいのかが理解いただけます。最後に…36の障害のある子については～受け入れる側の子供の気持ちを考えずに、の文章は障害者差別的なお考えであることをご了承ください。</p>

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)